

お知らせ

羽津地区市民センター
羽津地区社会福祉協議会

特集号

平成元年7月1日

ボランティア 特集



「ボランティア」とはあまり聞き馴れない言葉ですが、住民自らの手による自主的、創造的な福祉の町、理想郷という意味です。

「ボランティアはづ」は、地区住民の手で隣人同士助け合い、おとしよりや小さな子供、障害を持つ人達など、社会的な弱者も安心して暮らせる理想郷、そんなまち「はづ」にしようという運動です。

まもなく訪れる二十一世紀は、まぎれもなく高齢化社会です。六十五才以上のおとしよりが全人口の二十％を占める時代に福祉のすべてを行政に任せるのではなく、きめ細かな福祉、心くばりは住民自らの手で押し進めていかなければなりません。

現在、羽津地区では、社会福祉協議会を中心に地域ぐるみによる社会福祉の向上、および社会教育の振興を計り、住民のしあわせと文化の向上をめざしています。 「だれもが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を積極的に押し進める為、各種事業、催し物に進んで参加されると共に、地域福祉の推進の先駆的な役割を担うボランティア活動に一人でも多くの方の参加を願うものです。



行政の地域住民の「福祉の輪」の推進に伴い、羽津地区の福祉の向上をみんなの手でと羽津地区市民センター、羽津地区社会福祉協議会の呼びかけにより、自分の幸せだけでなくまわりの困っている人達のために少しでも役立ちたいと、十八名のボランティアの方が自主的に応募して下さり、その名は「羽津ふれあいの会」と命名されました。

「羽津ふれあいの会」では

- ひとり暮らしの老人のために
- 寝たきり老人のために
- 目の不自由な人のために
- 耳の不自由な人のために
- 心身に障害のある人のために
- 両親のいない子どものために

等などスケールを幅広く大きく持つて、ネットワークの核となる民生委員さん達のお手伝いが少しでもできたならと熱意をもって取り組んでいます。

現在第一第三月曜日と第二第四水曜日に、小田田温泉記念病院のデイサービスセンター、入浴サービスへ二名づつ交替で実習を兼ねて入浴介助の手伝いに行っています。

又、ふれあい広場等お年寄りから子どもまで、コミュニケーションづくりの場にも参加しお互いに人間性豊かな心のふれあう羽津の

羽津ふれあいの会

酒井 マチ子

地域社会づくりに協力させて頂きたいと思っています。

高齢化社会が進むにつれ、家族構成が大きく変わって来ている現在当然地域のますますの福祉（ボランティア活動も含めて）が必要になって来るのではないのでしょうか。私達ふれあいの会では困っている方の身になって、ひっそりとしめやかに、かつ円滑に作業をお世話をさせて頂くようにがんばります。きっと小輪でも美しいふれあいの華が咲くことでしょう。



最近では、テレビ画面でも時々手話を見かけるようになりましたが、私が手話を始めたのは今から八年前羽津地区市民センターで、手話講習会が開かれると知り早速申し込んだのがきっかけです。三ヶ月ぐらいの講習会が終わりに近づき、もっと手話を学びたいという気持ちの人々が集ってサークルを作ったのでした。

サークルの中で勉強して、ろうあ者の方々と出会い、親しくなりいろんな話をするにつけて、耳が聞こえない事の不自由さを、本当にたいへんな事なん

だ実感しています。

でも、手話を使ってもろうあ者の人々と話し合える事はとてもうれいものです。各地区に、手話通訳者として講演会、学校の

手話サークル

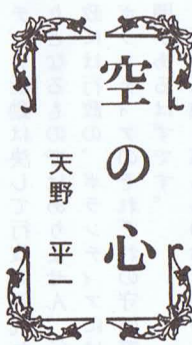
「はばたき」 佐藤 文江

授業参観、病院等いろいろな活躍していらっしゃる人もあります。私は、今はろうあ者の方々と健聴者の方々と同じようにおしゃべりができる事に満足しています。満



最近急進的に伸びた「経済大国」日本の社会。そのヒズミの中に生きる弱者の援助者として、ボランティア活動に従事し、献身的な努力を願っている方々に深くその善意を敬服申し上げるもので……。しかし、その組織の一員となつて、その任につくことはお互いに種々の事情があつて至難ではなからうか、と存じます。そこで、私はあまりむつかしく考えるのではなく、日常生活の中での「社会奉仕」活動がその分に応じ、行ない得ることがある様に思われてなりません。

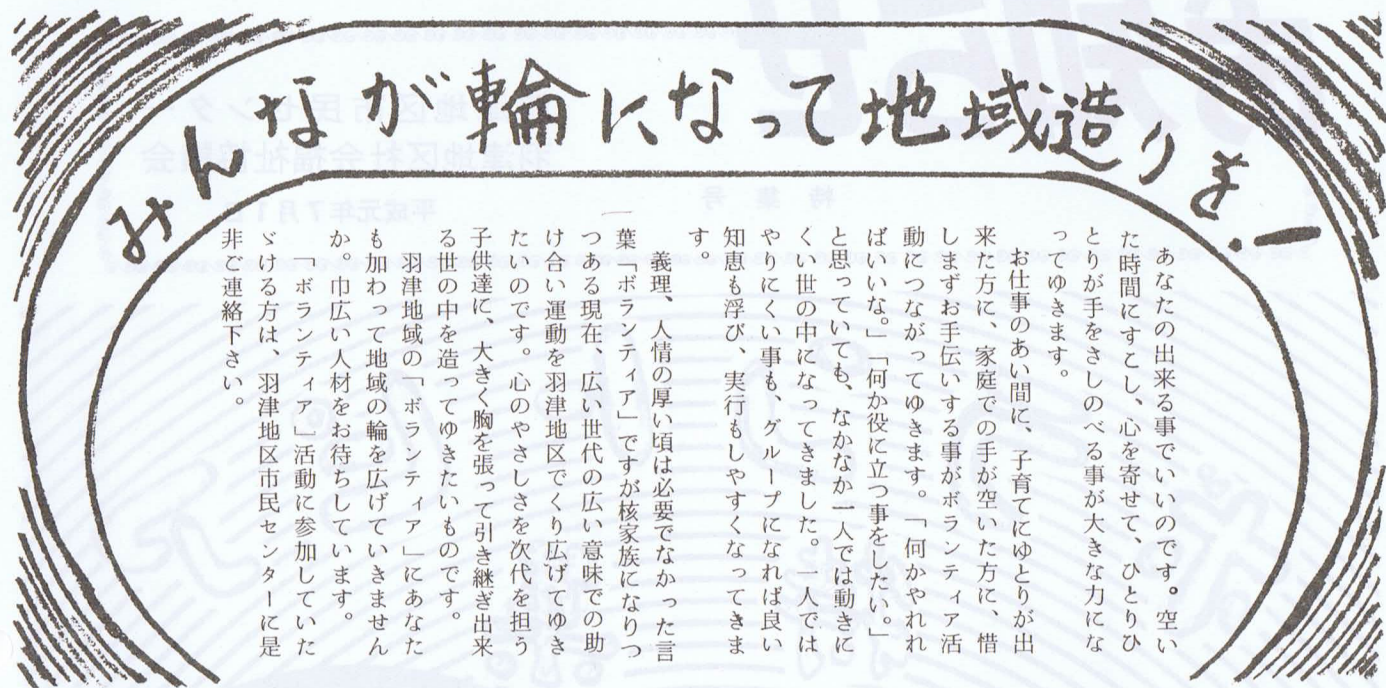
例えば歩行中、足元の「ガラス



天野 平一

の破片を拾う心「乗り物の中では弱者に席をゆずる心」又人と交わす言葉の中にも「誠実がかよう心」等々広義の「社会奉仕活動」の一環ではないでしょうか。してみれば、お互いの行為行動の中に無限に、この種のもの存在している様に思われてなりません。しかし心を得るべきは、あくまで「報酬を求めず」「他にはこりを口にせず」「空の心」は絶対的であるべきだと考えます。

この様な個人行為が複雑な現代社会環境の浄化の一助となり、社会奉仕の精神に帰一するのでは無いでしょうか……。



あなたの出来る事でいいのです。空いた時間にすこし、心を寄せて、ひとりひとりが手をさしのべる事が大きな力になってゆきます。

お仕事のあい間に、子育てにゆとりが出来た方に、家庭で手が空いた方に、惜しまずお手伝いする事がボランティア活動につながってゆきます。「何かやればいいな」「何か役に立つ事をしたい。」と思っても、なかなか一人では動きにくい世の中になってきました。一人ではやりにくい事も、グループになれば良い知恵も浮び、実行もしやすくなってきます。

義理、人情の厚い頃は必要でなかった言葉「ボランティア」ですが核家族になりつつある現在、広い世代の広い意味での助け合い運動を羽津地区でくり広げてゆきたいのです。心のやさしさを次代を担う子供達に、大きく胸を張って引き継ぎ出来る世の中を造ってゆきたいのです。

羽津地域の「ボランティア」にあなかも加わって地域の輪を広げていきましょう。幅広い人材をお待ちしています。

「ボランティア」活動に参加して下さる方は、羽津地区市民センターに是非ご連絡下さい。

地区の皆様、御存じでしょうか。「人生八十年時代に備えて、私達は市の福祉施策を充分に知り、利用して、幸せに生きていきたいと思えます。次に二、三かかげました。

「対象者」

六十五才以上で、寝たきり、又は体が弱くて、日常生活に支障のある方。

○家まで送り迎えしてもらえます。

○小山田病院の温泉へ寮母さん、ボランティアの方で、入浴させて頂き下さいます。(一週間に一度一木曜日)

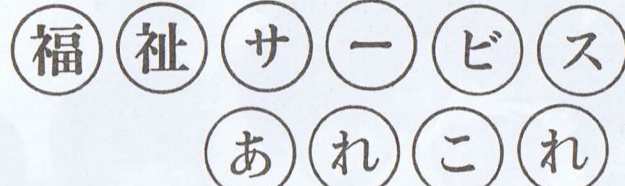
○実費(五百円)で昼食も頂けますが、パン、おべんとう等持参でも結構です。

「対象者」

○六十五才以上の寝たきりの方

○痴呆老人

○重度心身障害者の方で介護している家族が、事故、病気、冠婚葬祭、出張等により、介護が出来ない場合。



奥村光子

(保護期間はおおむね七日以内です)

家庭奉仕員(ホームヘルパー)の派遣

「対象者」

老衰や心身の障害があつて、日常生活に支障があり、世話をしてくれる人がいない家庭。

○食事、洗濯、掃除、買物、整理整頓等。

○相談、話し相手等。

【費用】

所得税の非課税世帯は無料、課税世帯は所得により、一時間、二百円から六百五十円まで。

○一日二時間(午前午後)週二日を限度としています。

○が、止むを得ない場合は、一日中お願いする事も出来ます。

(くわしくお知りになりたい方は、担当民生委員、又は市民センターでおたずね下さい。)

羽津地区民生委員名簿

氏名	電話	担当区域	氏名	電話	担当区域
奥村光子	31-4003	霞南部、霞北部、白須賀町	竹尾栄	31-8829	羽津中1、2、3丁目
水越勝一	31-4833	富士町、金場町	村瀬重行	31-1823	羽津山町
田中正雄	31-6672	八田1丁目、2丁目、3丁目	黒宮健	31-7922	別名2丁目、3丁目
山本宗二	31-5227	羽津町	服部一二	31-1317	別名4丁目
藤井久子	31-1922	城山町	中西晴子	31-8869	別名1丁目
山本鉄男	31-3455	大宮町14番〜27番	森正巳	31-6512	別名5丁目、6丁目
梅本まさ江	32-6379	大宮町1番〜13番	寺村初夫	65-8488	鵜町、南いかるが町
森三吉	32-1188	大宮西町	木下公	31-1933	山手町、緑丘町

「東京オリンピック見学に行ったとき……」と話し始めると、そんな昔話をフフフと笑われたので、とたん話を止めました。相手は孫と同年代。成程私の話は昔昔の話であった、と改めて我身の歳を顧みなおしました。

私達には泌みついた昔語りや頭の中に居座っているのでしょうか。しかし昔が離れ切れず居座っている故に只今の世に感謝出来るのでしょうか。

昔ずつと昔の話

朝起き立ちに柴を折り煙に眼をこすりながら火をもし、コトコトと時をかけて朝食の仕たくに忙がし手を手を動かかし、体を動かしてせと働くことが当然の時代であった。が、今は……

つぶやき

清水 小す枝

コックをひねると水が出る。スイッチを入れると御飯が出来上る。洗濯機はひとりで綺麗に洗ってくれる。洗剤を少々垂らすだけで油の付いた皿もコップもピカピカになる。このように楽になった事々。いつとはなく知らぬ間に生活の中で自分の物になっていく。この日常の恩恵に浸っている事が今更に有難く。有難い有難いと感謝の念でいっぱいです。

年と共に疲れ易く手足も硬くなってきました。がいつになっても昔のもろもろを知っているから只今が有難いのだと自ら納得し改めて感謝している毎日です。お互い喜び会いましょう。

移動浴槽を

御利用下さい

今年度より羽津地区市民センターに移動浴槽が設置される事になりました。ひとりで入浴出来ない方に御利用いただけます。

入浴の際は市の社会福祉協議会の保健婦さんが、健康状態をチェックして、ボラントピア「羽津ふれあいの会」のかたがたがお手伝いに来ていただけます。

浴槽をお貸しする事も出来ませんので、お気軽に羽津地区市民センターまで、お申し込み下さい。

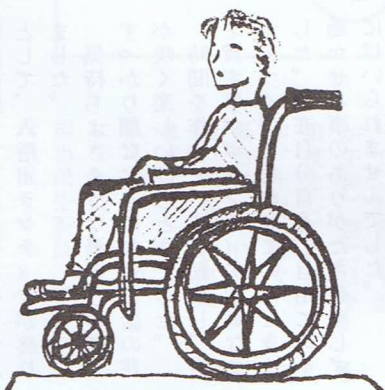


車椅子を

お貸しします

羽津地区市民センターに車椅子が一台設置されました。

日頃外出に不自由されてみえる方、お気軽にお申し出下さい。詳しくは、羽津地区市民センターまで、お問い合わせ下さい。



今年も大宮町の梅本甚一さんから、センターに美しいサツキの鉢が届けられました。職員はもちろん、センターを訪れる人の心をなごませてくれます。外にも生花、盆栽、季節の切花等折に触れセンターを飾って下さるかたがたがおみえになります。

ボラントピアの心とは、こんなことから始まるのではないのでしょうか。別に肩ひじ張った考えにとられることなく、ちょっとした心配り、やさしさがあればどなたにでもできることだと思います。

よくボラントピアは市の手助けだと言う人がみえますが、ボラントピア活動は決して行政の肩代わりとなるものではありません。行政には行政の、ボラントピアにはボラントピアのそれぞれの守備範囲があるはずで。

近所に独り暮らしのお年寄がいたら、一日一回必ず声を掛けてあげ、又、話し相手になってあげる、庭に咲いた花を届けてあげる………。明るく生きがいのある人生を送ってもらうよう温かい思いやりと心のかようふれあいをみつけようではありませんか。

アメリカでは、杖をついた人のまわりでは子供は絶対走らないという事です。子供の頃から社会的弱者をいたわる心がうえつけられているからです。

子供からおとしよりまで、できる範囲でできることを「を相言葉に、心ふれあうまちづくりはほんの小さな思いやりから生まれるのではないのでしょうか。

広げよう 福祉の輪